

# 壊れゆく“若者たち”

## 『File.44 デジタル症候群 ~若者が自殺する国、日本』

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

先日神奈川県座間市のアパートで9人が遺体で見つかった事件は、まだ記憶に新しい方も多いかと思われます。この凄惨な9人の殺人事件は、大きな社会問題を醸し出しました。その理由は、犯人の元にSNS (Twitter) で自殺志願する人間が集まる形になったからです。インターネットは社会との不本意なコミュニケーションの距離をも近くしたといえます。かつて2ちゃんねるや独自の自殺募集サイトのようにな形で一緒に自殺をする人呼びかけ、集団で練炭自殺するという事象が起きていましたが、今回のようなSNSで公けの場所から集まったという事態も現代の縮図であるといえます。SNSに投稿された内容は、基本的に誰でも確認することができます。しかし内容が公けでありながら、ネットでのコミュニケーションは表面化せずに行われるという恐ろしさがあり、個人の心境の変化や実情に食い込むことが出来ないというリスクもあります。表面上では「助けて」を言えない若者が増えているそうです。かつ競争社会に生きてこなかったことから、勝ち負けに弱く、早々に諦めてしまうという傾向が全体的に見られるというのです。

これは対岸の火事のような出来事でしょうか。強い危機感を覚えるべき事象なのではないでしょうか。今後の日



**Profile**  
 東京都大田区生まれ。  
 英国ウエールズ大学 MBA (経営管理修士)。  
 日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コーンセンター協会情報調査委員。  
 (株)グッドクロス取締役 COO  
 長年コーンセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコーンセンターを展開。  
 beccall1031642012088  
<http://www.beall.jp/>

本を支えるべき若者が無気力に命を失っていく事態です。少子高齢化、若年層の自殺、そして日本は世界的にも借金大国です。普通に考えても日本が今後発展する要素がありません。しかし一番怖いことは、多くの人に危機感というリアリティが無いことです。どこかでなんとかなるのではないかと感じていることが最も危険視するべきかと考えます。誰かに頼るのではなく、自ら考え、変えていこうという意識を一人ひとりが持つことが最も重要であるといえます。

こういった背景から若年層 (15~34歳) の若い世代で死因の第1位が自殺となっており、先進国で1位なのは日本のみという事実があります (※資料参照)。

